

文化財 だより ふるさと再発見

市内の歴史史料を 集めています

市史編さん室は、市の歩みを明らかにすることによって、郷土についての正しい理解を助け、歴史研究の活性化を図り、文化を振興するため、平成十年に設置されました。

当初は、新しい市史の編さん・発刊を目指していましたが、平成十四年に三市一町による法廷合併協議会が設立されるに至り、市史の発刊を一時見合わせ、歴史史料の収集と整理・研究に力を注ぐことになりました。

そこで、市史編さん部員などがこれまで研究してきた成果や、新史料などについての情報を、随時資料集にして発



行し、市民の皆さんや、広く各分野の方々に紹介していくことにしました。

すでに発刊した「土岐市史資料研究」第一編は、近世史料研究の中から、解説を終えた史料をまとめました。第二編では、三月に寄贈された山村道平家文書から、泉町久尻・多治見間を結ぶ「川戸新道」建設と現土岐市駅となる停車場設置のいきさつを明らかにする史料、そのほか旧道「下街道」などを紹介しました。

市史編さん室では、市内に残る古文書・写真などの史料を収集し、所蔵者・所在などの調査・確認を行い、整理しています。

史料をお持ちの方は、情報の提供をお願いします。

詳しくは、市史編さん室 ☎ 544443 へどうぞ。

教育夢 発信

土岐津中学校

「互いに高め合う協同学習」

土岐津中学校では、一昨年度より「協同学習」を教育活動に取り入れています。「協同学習」とは、小集団を活用した学習法です。この学習法では、生徒たちが一緒に学習課題に取り組むことによって、自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとしています。

つまり、自分一人ではできなかったことも、仲間がいたからできるようになったという思いを味わったり、自分では理解していたつもりだったけれども、仲間に説明しても分かってもらえなかったから、自分の理解はあやふやなものだったと実感したりできるのです。

また、「協同学習」では、高い学習効果を求めるとともに、よりよい人間関係をつくることができると考えています。

三年生男子バレーボールの授業後の生徒の感想です。

「Y君が先頭に立って、みんなに声をかけてくれた。声の小さい人には呼びかけをしてくれた。それに応えるみんなもすごかった。」(I男)
「みんなが、ぼくを責めることなく、カバーしてくれたのでうれしかった。」(K男)



このように授業では、『協同して勝つ』ことをチームの目標とし、その達成のために各自が責任を持って自分の役割を担う姿や、互いの気持ちをそろえて練習をしたり、動き方を約束してプレイしたりする姿が見られました。また、自分のプレイの結果がチームの成果となることから、一人のミスを互いにカバーし合おうとする姿も見られました。

